

【目次】

1. アーカイブ No.14

連載「日本労働会館物語」第 11 回 2010.06.16 発行の第 12 号に掲載

2. 2/02(金) JAM・TDK 労働組合 30 名

3. 2/07(水) 出張講演・UA ゼンセン・DCM ユニオン中央委員会 67 名

4. 2/08(木)～09(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜」講演と見学 6 名

5. 2/13(火)～14(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・コーナン商事ユニオン中央委員会 56 名

6. 2/15(木) UA ゼンセン・ソフマップ労働組合 30 名

7. 2/20(火)～22(木) “期間限定”「熊本虎三氏」の特別展示

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.14

連載「日本労働会館物語」第 11 回 2010.06.16 発行の第 12 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 11 回

<宣教師クレイ・マッコレーの来日>

1887（明治 20）年 12 月、アメリカ・ユニテリアン協会（A. U. A.）から来日した宣教師アーサー・メイ・ナップにより日本でのユニテリアン・ミッションがスタートしますが、その拠点となるユニテリアン協会本部が東京・永田町に置かれたのは、1889（明治 22）年 11 月でした。本部は翌 1890（明治 23）年 2 月に麻布区飯倉に移転し、惟一館と名付けられます。

ユニテリアン・ミッションの本格的な拠点として東京芝区の三田四国町に惟一館（後の日本労働会館、友愛会館）が建設されるのは 1894（明治 27）年 3 月で、これらを主導したのが宣教師クレイ・マッコレー（1843～1925）です。今回はマッコレーについて記述いたします。

マッコレーは 1843 年 5 月 8 日、米国ペンシルバニアで生まれています。長老派教会の家庭に育ち、敬虔なカルバン主義の信仰を守った少年時代を送っていたようです。彼はディキンソン・カレッジ、プリンストン大学で学んだ後、南北戦争に北軍兵士として参加、1862 年 5 月 3 日の戦いで捕虜になっています。

戦後、彼は神学校に学び、長老派の牧師となりますが、次第に長老派の教えから離れ、自由宗教へと接近していきます。1868 年、デトロイトの第一会衆派ユニテリアン教会の

牧師となり、その後、いくつかのユニテリアン会衆派教会で牧師を務めた後、ドイツへ留学し、哲学と神学を学びます。

ドイツでマッコレーは、カール・フリードリヒ・クリスチャン・クラウゼの影響の下、「キリスト教の起源や歴史、クラウゼの哲学を綿密に研究し、汎神論の考え方を重点的に学びました。その結果、「彼の思考の幅は広がり、神と人との関係を、より自由な広い視野」で見るとなると、「真のキリスト教徒とは何か」を考えるようになりました。

1875年、ドイツから帰国したマッコレーは短期間、ユニテリアン教会の牧師を務めた後、1880年からアメリカ民族局で働くようになり、1884年まで務めています。この間、アメリカ・インディアンの言語を研究し、1881年にはセミノル族と数週間暮らし、「部族の語彙、単語、表現」などに関するレポート「フロリダのセミノル族」を書いています。

1887年に妻を亡くしたマッコレーは、同年の米国ユニテリアン協会の宣教師派遣に応募します。当時、アメリカでは海外宣教の高まりがあり、また日本から米国ユニテリアン協会に対し宣教師派遣の要請があったことから、ユニテリアン宣教師の日本派遣が決定します。先ず日本の実情を調査するため1887（明治20）年12月、アーサー・メイ・ナップが派遣されます。

そして1889（明治22）年10月、マッコレーは、日本での視察結果報告等のため一時帰国していたナップとともに来日します。この時、慶應義塾に赴任する3教授（ナップの斡旋）や通訳兼助手となる神田佐一郎らも来日しました。こうして1920（大正9年）に帰国するまでの、約30年に亘るマッコレーの日本での活動がスタートします。

（連載第11回終り。文責・間宮悠紀雄）

参考資料：「クレイ・マッコレーの生涯と思想—その友愛会との関連—」（松井七郎著、同志社大学「経済経営論叢」第7巻）、「クレイ・マッコレー伝」（Diana Coscette著、米ディキンソン大学HP）、「なぜユニテリアン・ミッションは進展しなかったのか—クレイ・マッコレーと日本ユニテリアン・ミッション（1）」（土屋博政慶大教授、慶應義塾大学日吉紀要英語英米文学第39号）

2. 2/02(金) JAM・TDK 労働組合 30名

2月2日(金) JAM・TDK 労働組合の30名が、常設展「日本労働運動の100年余」を見学。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など「日本労働運動の100年余」、特に同盟運動の歴史を中心に見学し、最後に鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学しました。

皆さんとっても熱心に、細かく見学した様子でした。

3. 2/07(水) 出張講演・UA ゼンセン・DCM ユニオン中央委員会 67名

UA ゼンセン流通部門・DCM ユニオン 67名が2月7日(水)、中央委員会の後、政治研修会を開催した。「日本社会主義運動の父」安部磯雄、社会民衆党、社会民衆党に始まり民社党、国民民主党に至る経過。労働組合にとって、政策実現のために政治は必要不可欠であることを歴史から紐解いた。ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など「日本労働運動の100年余」を織り込みながら、中でも、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどに関心と興味を引いた様子でした。最後は選挙に勝つためのやるべきことで締めくくりました。

4. 2/08(木)～09(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜」講演と見学 6名

2月8日(木)～9日(金) UA ゼンセン・流通部門ダイエーユニオンの伝承塾である「枝垂桜」塾の6名が来館。常設展示「日本労働運動の100年余」を受講。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を90分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。さらに理解を深めるために、「日本労働運動の100年余から民主的労働運動を探る」と題して友愛会から連合に至る歴史的経過の詳細を受講。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしていました。

5. 2/13(火)～14(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・コーナン商事ユニオン中央委員会 56名

2月13日(火) UA ゼンセン・流通部門・コーナン商事ユニオンの56名が中央委員会の後、政治研修会を開催した。「日本社会主義運動の父」安部磯雄、社会民衆党、社会民衆党に始まり民社党、国民民主党に至る経過。労働組合にとって、政策実現のために政治は必要不可欠であることを歴史から紐解いた。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを

学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。最後は選挙で勝つために何をすべきかで締めくくった。

6.2/15(木) UA ゼンセン・ソフマップ労働組合 30名

2月15日(木) UA ゼンセン・ソフマップ労働組合 30名が来館。常設展「日本労働運動の100年余」を見学。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展などを中心に解説。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。

皆さんとっても熱心に見学した様子でした。

7.2/20(火)～22(木) “期間限定”「熊本虎三氏」の特別展示



2月20日(火) から3日間の期間限定で「熊本虎三氏」の特別ミニ展示を開催した。珍しい方の胸像に感心しつつ、情報が少ないことと当時の活躍ぶりに感心した様子でした。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----惟一館から129年、友愛会から111年-----